

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2473300057
法人名	社会福祉法人 青山福祉会
事業所名	グループホーム 森の里
所在地 (電話番号)	伊賀市腰山1135 (電話) 0595-54-1331
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 11 日(水)

## 【情報提供票より】 (H19年6月24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 19人, 非常勤 0人, 常勤換算 19人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

## (4) 利用者の概要( 6 月 24 日現在)

利用者人数	26 名	男性 6 名	女性 20 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名
要介護3	10 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.2 歳	最低 62 歳	最高 92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	名張市立病院 上野病院 岡波総合病院 大竹歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山奥を感じさせる緑豊かな郊外に位置し、開設後5年目を迎える特養、デイサービス併設の3ユニットのグループホームである。民家とは離れており、森の里関連の法人施設があるだけで、運営推進会議だけが地域とのつながりの感がする。しかし特養時代からの地域とのつながりもあり、孤立はしていない。事業所内は木の温もりを感じる部屋作りと、「光庭」という名前の廊下や食堂から自由に入出りできる中庭があり、草花や野菜が植えてあり、日向ぼっこにも良い。各居室には洗面が設けられており、プライバシーも守られている。特養、デイサービスが併設で、医師、看護師、栄養士等が身近にいるのも強みである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題であった「看板の設置」や「包丁の保管方法」等については改善されていたが、「玄関の施錠」「職員も利用者と一緒に食事する」については、未改善である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ職員は調査の意義、目的をよく理解し課題の検討改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年8月から2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、提供しているサービス内容を説明し、サービスの質の向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情吸い上げの体制は出来ているが、苦情そのものは少ない。しかし苦情が無いとこのことで安心は禁物である。今一度、家族や地域との関係作りを見直し、苦情が出やすい環境作りをお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を開催することで、地域とのパイプも一部はつながりが出来たが、待っていても地域の人は来てくれないので、事業所側から積極的に地域と交流する機会を増やす努力が望まれる。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を共有しており、事業所としては「ゆとりを持って」「その人らしく」「できることはやっていただく」等をサービスの目標にしているが、地域密着型サービスとしての事業所理念がない。	○	地域密着サービスの意義をも含めた「事業所の理念」にされることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆとりを持って」「一緒に・・・」を定期的なスタッフ会議やリーダー会議の席で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を開催しており、地域との交流もできてきているが、近隣から離れているという事業所の立地条件からも地域との交流は多いとはいえない。	○	立地条件から、待っていても地域の方から来てくれることは少ないので、事業所側から積極的に地域と交流する機会を増やしていかれることを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめリーダー(職員)は評価の意義をよく理解し前向きな取組みを行っている。前回の要改善事項についても全員で話し合っ改善に努めた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、提供しているサービス内容を報告し、出席者から第三者の目で意見をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れはしているが、市役所職員は運営推進会議のメンバーにも入っておらず、事業所と市役所担当者との情報交流(連携)は少ない。	○	事業所の管轄は市役所であり、事業運営やサービスの課題の中には市役所担当者と協議しながら一緒に解決していく必要が多いと考えられる。事業所の実情やサービスの取り組みを折に触れ伝える等、積極的に連携を取られることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や定期的な「預かり金明細書」を送るときに本人の状況を報告しているし、変化があるときは随時、連絡をしている。	○	「家族会」を開催し、家族とかかわる機会を持ちたいという気持ちもあるが、うまくいくかどうかの心配も大きく苦慮している。最初から事業所全体規模の開催でなく、ユニット単位でスタートするのも一方と考える。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口の設置や第三者への相談体制もできているが、家族の意見や不満は少ない。	○	家族の意見をもっと吸い上げる努力・工夫が望まれる。苦情が無いのが良いとばかりはいえない。運営推進会議での意見の吸い上げも期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による利用者への影響を良く理解しており、ユニット間の利用者の異動や職員の異動は極力行わない方向で配慮しているが、法人全体での異動があり苦慮している。	○	利用者や職員との馴染みの関係作りが、サービスの質の確保の核心であり、やむをえない離職や異動の場合でも、利用者との信頼関係が崩れないよう、その時期や引継ぎ期間の面で最善の努力をされることを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は少ないが法人内は多く、またグループホーム連絡協議会等の外部研修もあり、職員参加の機会を設けている。研修受講後は報告を行い他の職員と共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の会合には毎回出席し、情報交換をしている。	○	事業所の質の確保には他事業者との情報交換が不可欠であり、形式的な表面上の交流でなく、事業者同士が協働して質の向上につながるような関係作りをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最終的には家族の要求に合わせることになるが、見学や面接を繰り返しながら、できるだけ事業所の雰囲気に慣れてもらえるよう努力している。	○	本人が納得し安心して生活がスタートできるよう、できれば体験入居のような形が取れないだろうか。検討をお願いしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることはしていただくという姿勢であり、職員は利用者から調理の仕方や裁縫を教わったり、野菜の栽培や昔の遊びなど、その時々物事を教わる態度で温かく接している。	○	職員も利用者と共に暮らす同士であり、喜怒哀楽を共にしたいという意識はあるが、仕事が非常に忙しい現状である。職員自身ももっとゆとりを持てる体制づくりが望まれ、検討をお願いしたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や日常の暮らしの雑談の中で、希望や意向の把握をするように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員1人が2～3人の利用者を担当しており、担当職員の意見を聞き計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、家族に説明し、意見を取り入れ、了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは半年毎であるが、ケアプランの内容を毎日チェックしており、状況変化時にはその都度支援内容を変更している。	○	随時の支援内容変更時もケアプランの変更を行い、家族に交付できるよう検討中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスや法人外のサービスとの連携を図り支援している。ショッピングや花見、メナード青山の散策等、希望者への支援を行っている。	○	現在は利用者全員が対象であるが、将来は個人の要望にも応えられるよう検討している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、本人及び家族の希望のかかりつけ医となっている。また3ヶ月に1回病院で定期健康診断を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では体制も整っておらず、終末ケアには取り組んでいない。	○	将来は終末ケアへの取組みも必要と考えているが、まず事業所としての方向付けが必要であり検討を進めている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他言しない、書類の建物外に持ち出さない、日誌を書く場所や個人名を伏せることなど職員の常識として認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のペースでなく、その日の利用者の体調に合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備や食事介助、後片付けをしているが、食事時間を別にしてしている。	○	食事は単に食欲や栄養を満たすだけのものではなく、その人に喜びや楽しみをもたらすものにする必要がある。利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを楽しく食べることが大切であり、再検討をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが、概ね昼からの時間帯になっている。	○	一人ひとりの希望する時間に入浴できるよう検討している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る人には洗濯物たたみや食器洗い、食材の買物、中庭の園芸、菜園での栽培等、趣味を活かした楽しみ、気晴らし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設の特養やデイサービスへ出掛けたり、四季折々には遠くまで景色を味わえるよう出掛けている。	○	職員も利用者も屋内に閉じこもった状態が続くとストレスがたまりやすく、日常生活の中で短時間でも戸外に出る機会を作ったり、一人ひとりの行ってみたい場所の把握と地域の催しへの参加、見学など、地域とのふれあいを広める支援もお願いしたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口の施錠はしてないが、安全上玄関には鍵をかけている。	○	鍵を掛けられ外に出られない状態で暮らすことの異常性、心理的な不安と閉塞感が利用者にも及ぼす影響を再考慮され、「安全面上しょうがない」ではなく、少しでも鍵を掛けない工夫をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施しているし、災害用の備蓄もある。災害時には地元の消防団に連絡し協力をしてもらえ体制は整っている。また、夜間の避難訓練は、併設の特別養護老人ホームと合同で年1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が献立を作成しており、バランスのとれた食事を提供している。食事摂取量は特に記録していないが全員がいつも完食である。水分はいつでも飲めるようサーバーがおいてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を取り囲むように各居室があり、花や野菜が植えてあり季節を感じることが出来る。全員が集まる食堂の天井は天窗になっており、明るく開放的であり、食堂横には掘り炬燵のある畳のコーナーもある。木の匂いがする壁には利用者の手作りの飾りがすっきりした感じで飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面と物入れがあり、馴染みの箆笥や家具、仏壇を持ち込んでおられる居室もあり、本人好みの環境が作られている。		